

## 技術講演会が開催されました

### 防災テーマに技術講演 県建設技協と法面協県部会が



設楽幹事長 長谷川支部長 荒巻副会長

群馬県建設技術協会と全国特定法面保護協会関東地方支部群馬県部会の主催で23日、前橋市内の群馬県公社総合ビルで技術講演会が盛大に開催された。

本年度は『あすの防災を考える』がテーマ。当日は、200人の定員を大きく上回る260人が聴講に訪れた。また、会場内には法面工の最新技術を展示したブースが設けられるなど、多くの聴講者が足を止めていた。

全国特定法面保護協会は特定法面保護の工法を探索するとともに、そ

の普及と促進をもって国土の保全に寄与しており、特定法面保護工に関する調査・研究および開発、技術者の養成などを行っている。群馬県部会の事務局は、渋川市の高特内に設置されている。冒頭、群馬県建設技術協会の荒巻清一副会長（県前橋土木事務所長）が「台風26号による伊豆大島の大きな災害で、ハードソフト両面から対策の必要性が再認識された。自然災害から身を守るため、日ごろから産学官が連携し、備えておくことが大事。本日は幅広い内容の講演が予定されているが、この講演が皆さま方の今後の業務につながるれば幸い」と述べ、同関東地方支部の長谷川泉支部長も「地域の危険度を把握するためには、詳細な調査が必要不可欠。本日の講演から多くの知識を得ていただきたい」と期待した。

同群馬県部会の設楽雅之幹事長は「伊豆大島の甚大な被害は、自然

の普及と促進をもって国土の保全に寄与しており、特定法面保護工に関する調査・研究および開発、技術者の養成などを行っている。群馬県部会の事務局は、渋川市の高特内に設置されている。冒頭、群馬県建設技術協会の荒巻清一副会長（県前橋土木事務所長）が「台風26号による伊豆大島の大きな災害で、ハードソフト両面から対策の必要性が再認識された。自然災害から身を守るため、日ごろから産学官が連携し、備えておくことが大事。本日は幅広い内容の講演が予定されているが、この講演が皆さま方の今後の業務につながるれば幸い」と述べ、同関東地方支部の長谷川泉支部長も「地域の危険度を把握するためには、詳細な調査が必要不可欠。本日の講演から多くの知識を得ていただきたい」と期待した。

その後、講演へと移行。まず、東京農工大学名誉教授の中村浩之氏が「地すべり・崩壊の現状」と問題点を演題に講義。中村氏は表層崩壊と深層崩壊に関し「斜面表層土が崩落する表層崩壊は豪

ち受け構造物、地下水排除工などのハード対策が有効との見解を示した。続けて、東日本大震災の被災地である宮城県土木部防災砂防課から角田篤彦氏を講師に招き、宮城県内の被害状況のほかに、防災事業の取り組みなどを講義した。

最後に同関東地方支部技術委員長の黒柳啓氏が最新の法面技術を紹介。施工状況の写真を用いながら、最新技術の施工手順や仕様、どのIPIあたりの概算事業費、さらには施工後の効果などを詳細に説明した。



約260人が熱心に聴講した

群馬建設新聞(2013年10月25日)に掲載

去る10月23日、群馬県建設技術協会と全国特定法面保護協会関東地方支部群馬県部会の主催で技術講演会が開催されました。

弊社も全国特定法面保護協会の会員であり、群馬県部会の事務局として他の会員各社と協力し盛大に開催することができました。

また、協会員各社より50種のカタログ・技術資料が展示され、官公庁及びコンサル業者の方が多くの資料をお持ち帰りくださいました。

関係者のみなさまありがとうございました。

